

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ 月 日 曜日）

あいさつの方で太こ岩達成

小瀬田小 四年 あら木 結葉

「今日は太こ岩に登ろう。」

「やったあ。」

父の言葉に、うれしくなった。なぜなら、今まで三回ちよう戦したけれど、と中から雨で三回ともちよう上まで登り切ったことがないからだ。「ちよう上からの景色を見たい」とわたしはずっと思っていた。

さっそく、登山口で家族で体ろう。天気はよかつたけれど、また雨がふらないかとどきどきしていた。

登っていくと、大才きな大きな岩があらわれた。「どこから登ろうか」考えて登るのはとても楽しい。と中のつり橋では、家族で力メラに向かつてピース。ヒメシヤラの木にだきつくと、ひんやりするのがつたわててくる。少し歩くと、ようせいが出てきそうなけのついた岩や木にかこまれた場所に着いた。どこを見回しても全部緑。わたしは絵の中に

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

（不許複製）



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

いるような気持ちで歩いた。
元気な気持ちで歩いてきたが、だんだんつかれてきた。そこで、すわっておやつを食べたり、父に手を引っぱってもらったりしながら登った。川をこえると、白谷小屋に着いた。初めての晴れた白谷小屋だ。母の作ってくれた玉子焼きやかからあげを食べると、元気がまたたんになった。

白谷小屋を出発して、太い岩を目指して歩き出した。ぐんぐん進んでいくと、手を使わないと登れないような大きな岩や小さな岩が出てきた。地面に手をつけたり、足を大きく開いたりして登るのは大へんだった。しかし、弟は意外とすいすい進んでいた。

つかれてだんだんと休憩時間が長くなってきた。すわって休んでいると、たくさんの人が登っていく。
「こんにちは、お先にどうぞ。」
わたしが言うのと、
「こんにちは、ありがとう。」

No. 2

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

No. 3

と返してくれる。うれしくて、心がほかほか
してきた。今までつかれていたが、あいさつ
をかわずとかがでてきた。それからも、たく
さんの人とすれちがいたが、いあいさつを
して、元気をもらった。心が元気になると、
体も自然に動くんだなと思った。
つじとうげの先は、急な坂になっていた。
ロープにつかまりながら登っていくと、少し
ずつ明るくなってきた。「ちよう上だ」と思
い、わたしと弟は、ダッシュした。

ついに、太こ岩に着いた。ぐるぐると見わた
すと、小さな川やたくさんの緑が下に見えた。
遠くには山が見え、青い空が広がっている。
三回目のちよう戦で、やっとちよう上の景色
を見るこができた。
太こ岩登山に成功したのは、あいさつをし
たり、されたりして力をもらった。あいさつ
の力だ。

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

